

(3) PICS 患者の地域支援に関する研究

保健看護学部保健看護学科	○西田 洋子
保健看護学部保健看護学科	古賀 雄二
保健看護学部保健看護学科	石田実知子
リハビリテーション学部理学療法学科	氏川 拓也

【目的】

退院後種々の症状により QOL が低下する患者群 (Post Intensive Care Syndrome, 以下, PICS 患者) の支援検討のため, 退院後の PICS 患者の困難と外来での支援の現状・課題を先行研究から明らかにすることを目的とした。

【方法】

PubMed, 医中誌 Web により, 論文形式・公表年を問わず文献検索を行い, 27文献を抽出した。うち, 退院後の PICS 患者に関する記述のないもの, プロトコル文献, 文献研究論文を除く4文献を分析対象とした。検索語は PubMed では「PICS」および「out-patient」, 医中誌 Web では「PICS」または「集中治療後症候群」および「外来患者」とした (最終検索日: 2021年8月2日)。分析対象文献を精読後, 内容を要約し, 外来 PICS 患者への支援と課題を整理した。

【結果】

国内文献はなく, 米国・豪州・ドイツの文献であった。全てで生活実態や困難を含む PICS 患者の実態が十分明らかになっていないとされていた。複数で,

退院後の PICS 患者への支援と ICU フォローアップ外来の必要性が述べられていたが, 経済面や有効性の面から設置が進んでいないとされていた。在宅の ICU サバイバーを対象とした研究では, 退院後に身体機能や記憶力の低下による様々な生活上の困難や費用面から必要な治療を受けられない経済的障壁, 生活上必要な移動が困難である交通的な障壁があったこと, 専門家の支援が得られずケアの調整が困難であったこと, メンタル・スピリチュアル面のケアの必要性が示されていた。

【考察】

ICU サバイバーの多くが PICS の症状に悩まされており, 退院後も生活上の困難があること, ケアの調整やメンタルヘルス, 経済面・交通面等の自身では対処しきれない困難があること, 支援方法として推奨されている ICU フォローアップ外来の設置が進んでいないことが明らかになった。今後, ICU フォローアップ外来と地域が連携して支援体制づくりを行うことが望まれると考えられた。加えて, 日本における退院後の PICS 患者の実態や生活上の困難, 退院後の支援の実態が明らかにされる必要がある。